風雅後集

下

853
北
166

函號 二架 七八

類 和歌

書名 二十一代集

冊數 五六

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館
渡邊千秋藏書

国立国会図書館　　タイトル『二十一代集 400巻』　請求記号 853-166

ガラス使用

和歌 雑躰中 暁雪

むろまちゝあまのそらなるゆきをみて　藤原為基朝臣

久保三年百首の内中に

夜もすがらふりつゝ明やしぬらんかねの音遠き雪の朝ぼ

不審

むろまちゝあまのそらなるゆきをみて

百首の内に

時しもや暁をくなりぬらんまきの戸さゝぬ雪の朝ぼ

前大納言為家

今上御時

あかつきおくるゝ雪をみて

ゆきをみてとをきのこゑのつゝ

かねのおとも雪にうもれつゝ

あかつきおくるゝ雪をみて

康永二年院六首の会に雪朝

後一条

みるまゝにそのみちゆきのうもるゝは

暁のかね

あかつきおくるゝ雪をみて

前大納言親宣

おもふ人なきまくらにもはるゝ雪

権大納言

秋篠月清集に

雪ふかきまくらにもはるゝ雪

暁のかねもうもれつゝ

後三位雅経

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

ちるもみぢ
と此ものことをもろ共
いまこそしるけれ

物うき秋をおもふ事の増りぬる月いと冷きあり明のみ
題をさぐりて人〻今つうまりもろ〻実こゝろ
事をうるせ給ふの 権貫洗御奇
重陽後朝
百首御会 洗御奇
さくらの
(おも)
(ゆうノすりかまし)
落葉為基朝臣
出て羽日まもる山のそまち
羽姫を
洗二位為
常ふみ姫の未あのく一村かもむ里も羽あけ

遊子内歌
やまふかにたゝ
明のうの秋きめのうちひめふみて
百首御会 洗御奇
春交指重
立うしろ為
雑寒夜一条
前大納言実的女

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

百首の歌一時
をもつて献ずるに
風をよめるの
おなじことを
もうしうるにより
雑部中
順徳院御
製
ふきとふく
秋の
前大納言為
家
前大納言為
兼
権中納言
定
雑部中
順徳院御
製
ふきとふく
秋の
前大納言為
家
前大納言為
兼
権中納言
定

山成向背斜陽裏
下有風塵事不知
可与二三知己

順徳院御歌

夕ばれの日かげのどかにうつろひて
　雑歌
山のこなたやあらしふくらん

康元二院六そく雑歌

雨のうちの夕日のかげさやかにて
　源義冷朝臣
月いまだしぐれもはてぬ空ながら

法二位行家　伝実

人とはぬ谷の戸ぼそもしをれつつ

前大納言為氏

落ちそふる松のしたばやうづむらん
　百首歌奉時
ふりぬるかたの袖の白雪

前中納言重頼

ふるさとの池水氷とぢはてて

後鳥羽院御歌

夜半ばかりの月ぞのこれる

為家卿

ものおもふ夕のそらもかきくれて

飛鳥井雅経朝臣

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

寂蓮

峰の寺鐘を

雑の歌とて入れり

寂蓮法師

峰の寺鐘を聞そめて夕暮こめて嵐の松風

さびしさに堪たる人の住家哉

山の端乃ありあけの月

つまでとおもふくて詠る

雑歌の中に

後徳大寺左大臣

ふれ入る涙のまゝ人もあらぬ袖の上に

かくしてそ見も慣しの夜半の月

永福門院

寂蓮法師

物となく夕のそらをうちまもり

ふるめくる色こそなけれ秋の雨

後鳥羽院御歌

寺深き霞の山の端も世にあるあきの

儀と聞朝臣

はるくと独そく秋の奥山も

告人のいをわるゝ鳥なれや

後一條院御製

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

[illegal] [illegal] [illegal] [

今日れんがうまつさまをおくつかへりまつるの月
雑の部
神のよかうめ月のかうれうむりの歌を
何となく昔恋しき我神の
時おりて花も紅葉も一さかり
大井河のの時うみ
二条院親王兄弟
うきくさにやどる面のをそまるる高みさ
大井河小落ちゆきうつるみ又井の水なれ
永福門院

山あひはおりうつりまつるの月
前参議基顕
うもくれ花の色うつる雑の部
前大納言為
みちかあさ秋くれやの山風
法二位為
あさ面のそまる花の色
百首歌たてまつりし時雑部
法二位為
なさき精は面のうつりまつるの月
入道二条前太政大臣

五首会 会は雑遠を

左上臣

ふるさとを山松の見てまちわびてまつ人の行ふ雨こそりより

永福門院内侍

おもひつつぬるよの夢のうちもなほ雨聞くほどはうつつなりけり

清俊臣 洪水寄

ひとりぬる寝覚の床のさびしさに袖もる雨の音ぞくだくる

雑御前

もの思ふ心にそへて聞く雨は袖の涙の数まさるらん

贈従三位 洪水寄

元久元年七月十五日 撰社会会 暮山雨

大納言有家

見渡せばふもとの里の上ばかりの遠の雨ぞ雲

前大僧正

おほかたの雨だに袖のぬれまさる雲

儀子内親王

ふるさとの雨の音さへ聞きわびぬ袖にあまれる軒の玉水

藤原親経朝臣

野の草もうち靡くまで降りしきる雨に露ぬく蘇の松をのみ雲

有家三首 洪水寄

雨は今降りとも見えぬ山の松ばかりにぞ雲

永福門院内侍

雨降りてふもとの里はそれながら山のなかばぞ時雨

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

雜海部中

海風

みそのわたより夕なぎにこぎ出でて

浦の松原見渡せば

永福門院

みそのうちに入日の影ぞ残れる

萩原や春野

吹山のすそ野の海へみそぎして

萩詠歌

白波のそなた吹山の麓より

沖風ふきて

萩原や春野

谷陰やこの葉の残り尽くすまで

雜歌

進子内親王

この里のさびしき山の里乃より村

松風ぞ吹く

嵐山峯の紅葉

白雲と八重立ち隠すもみぢ葉の

錦一重

新大僧正慈順

散りかかる山もわが

秋と松のみぞ

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

津守國基

はの國の羽根ちるそこのふかきこそ
頼もうすれ

清水の難波の里の海ちかくまで
あし根の松の陰のあるかぬ

前中納言為相母

清水の難波の里の海ちかくまで
あし根の松の陰のあるかぬ

法二位家

贈太皇太后宮甲斐
日をへてあふさかやまの関水の
清水のおとそすゝむる

法二位家

幸海やまのくちなしの花の色
一入ふかき

前中納言為家

おうの海やそこもとをきて
ふかきかぬ

法二位家

的の海やまの松のまのかもの
前中納言為家

うらくれの磯波をわけて沖よりの
大

法二位家

清水のうつるみちよ数そへて
最大納言為忠

春山ゝく人のあさ霧

前大納言為

入哥にいそのうら松ねのうへの

雲の月をもおもひおろして

前右兵衛督時

春海さわの月をゆふへの風ふきて

浪二位資子

山人のおる業ふかくまて行あと

従三位親子

はまちとも山陰をこぐ夕霧の一すち

前大納言為

名ころもきてかりむすみさりの松ね

夕松とう事を

仗見院御奇

ゆきゝかへあまのすむ海ちかき家ゝ

百首哥哥時

権大納言公蔭

手枕さ枚の指も弥さ久に
雑の中よ　　浄妙寺左京
書わたす朝の竹乃もと雀
康永二年院六首会よ　雑色をいつゝを
　　（新大納言）　　源為つ朝
春くれ日影の山乃ふもとくもの立まふ夢
　　路を　　儀満法師
山年の田面もり引鶴
雑の中　　前中納言為相
会津や末遠さまおふくろ

柞のもとゝ（古）
山家雪と云ことを　　正三位隆教
吹おろす新嶋の山乃松風
　　冬の部の中よ山家松
前中納言定家

正三位忠嗣
もろ人もなりよ小倉山
　　園光院会前関白左大臣
松の風ふけのあよやふく神の人乃ふもと
　　権律師参通

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

秋歌上 撰集抄

一年とゞめくうてくれ行乃春をしむ人〻と
云捨別て人〻とゝ
山里

つくろはぬ家とゝ庭の苔清し

題しらす

秋とゝもせくらとゝもゝ節哉

山家名とゝとゝ

山寺やとゝ入云のあら尊

百首御会

松風くゝゝゝ山のやゝゝゝ

佛國禪師

佐見院御幸

佐見院御幸

佐見院御幸

無動寺ゝ前山ゝてゝゝゝゝ時源兼氏朝臣

前大僧正道玄

山里とゝれをみゝとゝひまんゝのとゝゝ

藤原家秀

別ゝゝ

四人をまれ初ゝをみゝとゝ

前大納言家雅

行かてもとゝるん春世中

宮居百首ゝ山家水を

人めゝゝれぬゝゝめ山里にゝひのあれまゝゝ

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

須しらす
ととろやとまる海いろみさひ
わすれ水の無極（とイ）のつとひさして
山家御寺にて　儀子内親王
二条院歌合
をちの山そ名のみ夏の新たれて秋端のそら八夜はかり
遊子内親王
空ふく風も岩のわれ面の雪やもるらん
新勅撰
順徳院御歌
まつおう（と）山ふもとつたそもむ落の秋面よりそ松のまち
橘

山深さ苔ふりの面の秋
百首歌奉時
前大納言為家卿女
里ちかきそひ松そうそして乃ろ人やなき
田家面秋
前大納言尊氏
山やまや新そふかくて面そ里さ風ふく暮
寛治二年百首歌
源俊頼朝臣
入浪山の里乃寒風そ吹
和山乃若葉寺そうみ給

山里八外面の木葉ニ行気ハ
題ニ
行ゆき〳〵て猿の声聞の折の頃なのそおくふて
寛治百首ニ小山家水を
山路入道前大納言
男とふ源山のおく共無ふれつまそ谷乃木
文保ニ後宇多院ニ百首ニ秋中よ
後鳥羽院御製
名しらぬ山のまくれなゐをふきおろす風
[illegible]

[illegible]
あら嵐の花乃粧をうち乱り朝雪ぬる〻山寺
山里なる雪ニ
前大僧正慈鎮
月ふまさ雪ニ埋ぬ山法水明〳〵乃雲乃下道
百首ニ
法印権大僧都
稲荷山おもゝ月のかりやとん松のいりえ乃ふねめ
山家鳥
前権僧正公朝
山ふや行のあるさ〻ニ入日地そ林の色共ありそめて
山路のふを
法印権大僧都

山人のすみかをたづねて

雑文を

見渡せば雪の木のもとに

こころ一つを

海さち山さち人の数

春めくらし

前大納言公泰

人はいさ心も知らず故郷は

東山は住みうかりけり

旅をねやうかれ出づる

古
[illegible]

いまだ野中の清水

昔の光とこの

春をおくる新玉年の

野辺と云ふも

あまの人よるまでさそうむの井も

春雪の積もりぬれば山路をのむまらじ

弘法大師

行そ

藤原通信朝臣

静仁法親王

[illegible]
[illegible]
[illegible]

雑部下

賀陽院御時

太上天皇

賀陽院御時

権大納言資明

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

山城　　藤原秀綱

通しおほせ今もまよそ侍山むすの法をのこさむ
　百首のなか　時

元の為よつて一切のそおしのほぬるもろもろ
　雑法の乃中ま

世になれのこるもの我心にてまぬせいあるまゝ
　藤原為守女

なれのをあはれをもちあつて同じ世にやとる
　法下顕範

ふへ八頭をまもるけものゝあるに

人にそかる山里の埋木
　百首哥なり

あるにもあらぬ身をかくしてもる山せみの
　藤原為明朝臣

雑哥
　康元二院六条雑心斜大納言
為ともあめりと聞てつかはしける
　源安門院
　（代詠）

聖霊勝会の日道二尓親王尊圓
　入道二品親王

みねまの
谷門のの乃ほ上仏をえて今そ初ふる
　大江広秀

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

如浄法師

源宗満

前大僧正守誉

前大僧正慶雅

平久時

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

西行

新寺

前中納言為相

前大納言實教

前大僧正道玄

寂西

寂蓮

寂然

寂念

寂光

寂超

寂身

寂昭

寂然

寂連

寂念

寂光

寂超

寂身

寂昭

寂然

寂連

おくの方までもかきうつしたる
文永はあまりへいうつして
何にうとくてゐきをも
世のうきふしうちわび堂
不断逐電といふ事を
歌枕名所おほきなれど
面を
校本 はくくと思へなるべし
前大僧正道昭
前関白藤原家
後頼朝卿
前大僧正道
前大僧正慈
権僧正忠

大峯乃奥乃岩屋ニこもりて
前大僧正道昭
源乃宰相の新枕ひさしうかよひ給ふ
頃ほひ
藤原家秀
山源くらをくして
読人しらず
ふくさうちあつめうつくしまるさま
分いりてのちをたれ
権僧正忠

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

雑之中に

武衛頼直

石巌禁基氏

高階宗成朝臣

如願法師

民部成範

藤原朝臣

藤原為頼

藤原為頼

藤原為頼

中務宮家の歌よ

郭公なくこゑを

うしろめたおもふ我やこゝろまし

お家の後継ぎ心もとなく

前中納言有忠

我妻や門うち出つゝ見渡せば

河くまおろす山乃端の月

不字母

秋萩や露の玉ゆへ折ふせて

なき世に行きし

後伏見院御製

秋とまてそのこゑ聞かぬ夜今より

河越し

永福門院

ふるやとの袖の露乃秋やうち

うしろめたおもふ我やこゝろまし

お家の後継ぎ心もとなく

藤原資隆朝臣

わさこそ袖をいくしまの浦

於

もるもなみだうちしきりつゝ

それとなくうつゝ

源人〻

ふるさとをおもふ袖よりもるものゝ

雨なれや

ふるおほつ山ゆ雨ぞ降りくる

我妻未志世路困心。将世若未志我雖退

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

寛永元年八月廿林院前左衛門督
経賢卿つかはしける

前大納言為兼

かくまで行末遠き命をもいのるかな
君

行精院入道前左衛門督

君ありてこそ我も後の世を頼めとよめる
ことの葉も思ひしるらめ

民部卿成範

梅の花香ぞ昔なる

わすれ草ふかくも人のおもへとや
忘れぬ人の後ぞ恋しき

円勝寺の女房

忘れじの後の形見ぞ悲しきや
忘れぬ人の後ぞ恋しき

永福門院

忘れおきて誰も誰もとこそ
思ひ出でめ

同院内侍

うき世にやすらふものは涙のみ
袖のみ濡るる

藤原清輔朝臣

逢坂の心をもみる
行末をかけてぞ頼む

源三位頼親

今ふれうき世とよそふるみ雪の夕乃ふれ春乃
ゆくへ乃ミやまさとかな

家
おもひやるさ夕ふけそめ海ふかき
ミちの
ほの世とそもろうきゆめとおもひさめ
ゆくへ
ミそうあら別のみ雪をもひやるもひ

待賢門院堀川

寂然法師

後恵法師

前大僧正慈鎮

普門院冷泉

普門院乃初度
にて最も春そ
おもき

春大納言入道前右衛門督

後二条院御百
首

春大納言
とるとて春あやめの草ふかうもいでそめし
雑奇の中ゝ
あれゆくもふれいかるよりあるよ人まれ
ふれき事のミやしけるみ雪も

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

中院前春奉
ぢのつゆ玉ゐる
前大僧正幼名勇
をけるく袖の
のかりて花の
内大
まれ源山の花に
後源宰相
けるよ月親

源恵法印権大僧都

源恵法師

源仲正

源仲正

源仲正

[illegible]
事を
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

家集ニ有

家集ニ有

家集ニ有

ふかやぶ乃さとなるものゝ
伯賢門流乃法ゐのとの
末乃世を首のうけと称する
坂東をも入道前参議
家ゟ御幸ありて
ふるき山乃水を
山里乃なまき新ゟ池ゟ
坂源ゟ流七月ゟ
仙院
流れ行てのみの名乃

仮見流法師

山流共初ゟ
ゟゟきたれ社の表ゟ
遠義ゟ流ゟれ
古
それてゟ乃ゟまて
家門流ゟれ
ゟをれ流ゟて
ふかー乃みの色を
古
坂源ゟ流乃れ
ゟ園光院入道前
てそゟも称ゟ

仮見流法師

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

石馬寺

[illegible]
伏見流れ月言
[illegible]
顕親門院

うみくも今はかぎれぬの空源よくすれ三月の夜
文学上人を忘の日よみ給ふ

高丽上人

[illegible]

風雅和歌集巻第十八

釋教哥

[illegible]
山寺の春ものどけき如来乃御法の声ぞ聞ゆる

いり行人を[illegible]
[illegible]

補陀落乃海を隔る[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

れいなのうめをいろ
もそまちうちもも
給うるん

法華経序品のこを
うるまよ花の匂ひとそれ
方便品

妙法のそひらのこおり
譬喩品乃ふをよめ
ふのそ一切そはのあまよふく

権僧正永縁

前権少僧都源信

解

入通二京親王尊圀

不覺不知不驚不怖のこを
学び改よ人

前参議経盛

信解品

舎利弗よ汝等諸の大弟子
仏そ讃めたまひし来そ
お大納言殿

年まそまちひさふうちの菜花
休ん院それそはくて
解ふとうそそうめる

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

後度あり迄尺数
坂川右大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

光華寺殿二月十四日 山中入道前
右近衛中将 従三位藤原朝臣
参議 正四位下兼行 左兵衛督 源朝臣
右中弁 正五位下兼 左少弁 藤原朝臣
右少弁 正五位下兼 左大弁宰相 源朝臣
右中将 正四位下兼 左兵衛督 源朝臣
参議 従三位藤原

[illegible]
不浄観の心をもあわれ
前参議教長
和泉海をみるかたてあらそひて
宮山成通のこころをうたよめる
法眼禅師
ゆふされば宮木源山を吹風の
ふもとの里に衣うつなり
前大納言忠通
ふる人もうき宮木源山のまつあらし
松吹音ぞ秋をしるべき
如宝上人

ゆくとしのこころをよめる　従二位親子
年をへてゆくとしをしるものからに
なほあらたまる春の空かな
前大納言忠通
ふる人もうき宮木源山のまつあらし
松吹音ぞ秋をしるべき
如宝上人
[illegible]
百首御会始
ゆくとしのこころをよめる
法成寺入道前関白太政大臣
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

くもりなくみなむとてあふさか
釈教の歌十首　僧正遍昭
教えの庭をおさめをきて法の
とをしへもゆめとのらせ
たまふにし

風雅和歌集巻第十九
神祇歌

帝よ御ふねの人のおとといふ
ふねの御神乃御事
三笠山
三笠山宮井をたゝ乃命とも
帝よ人のおふうにいのらせ
給ふ三笠の山の宮井の
水ハ塵芥ニ
ハ
ハ
ハ

和名
月水 俗云佐和利

[illegible]

神祇

[illegible]

月次十首 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

みさを山うれ氏人の教えを
雑ご会乃中よ
うれう氏ご八枝を三台三山
玉日社へまりてよ
教えてわれこそ
宮居百首ご
ゆりよもう神代も
建武の氏雑の

故即以石凝姥爲
冶工採天香山之金
以作日矛又金剛
眞名鹿之皮以作
天羽鞴用此奉造
之神是即紀伊国
所坐日前神也

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

久明親王薨去の時の誄詞

誄詞

むもれ木はうづもるるとも誄詞よなりあらはれて

後もながくあるべき日吉の誄詞

言の葉神祇といふことを

前大僧正

みそぢにあまる誄のけふまでも

権大納言公蔭

あまてらすみけしをつぎ給ふ代のあるじ

無動寺権僧正

後伏見院御製

かぎりなき為にや祈るみそぢ過ぎ

鷹應元年は四のそのほどにて

後伏見院御歌

高階師直

大ぞらもあふぐ人数のかずあれば

日吉社の誄

皇太后宮

八道二求親王薨

誄詞

ひとりのみ

後宇多院御製

誄詞よなりあらはれて

前中納言為相

言の葉神祇といふことを

前大僧正

みそぢにあまる誄のけふまでも

権大納言公蔭

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

風雅和歌集巻第二十

賀歌

百首歌奉時

民部卿為定

かつらのきくみとせのやまひのいまそらも
ちよのはしめとかすみわたれる

皇太后宮大夫俊成

諸人のそれそれ君をおもふらん
心も知れる春の初風

前大僧正慈鎮

山桜ちりそひりとなりぬれは
雑の下

日のひかりのどかに風もしつまりて
ちれる百首の中に

藤原定家朝臣

雲井よりいつ帰りけん跡もなし
花のみ残る春の山里

後京極摂政前

山桜ちりそひりとなりぬれは
雑の下

日のひかりのどかに風もしつまりて
ちれる百首の中に

藤原定家朝臣

雲井よりいつ帰りけん跡もなし
花のみ残る春の山里

後京極摂政前

前参議従四位藤原朝臣家経

祝のこと

春のくれ今日幾人くもりきて
雪降百首奉れとありしを

こもる山ふもとのかすみ春くれて
雪ふりしきる日ぐれの空

雪の朝

我宿のやまもとまでを知るかほに
雪ふりしきる朝ぼらけかな

前大納言

山路入道前右大臣

冷泉前右大臣

花山院前内大臣

大江家秀

あかつきの雪ふりしきる山もとや
古
春夏秋冬

前大納言公信卿

一年の春秋乃秋の月
春夏秋冬

前大納言

浪の上照る月をみるかな

くもりなくすめる月をみるかぎり
春夏秋冬

春宮亮実兼

くもりなくすめる月をみるかぎり
春夏秋冬

春宮亮

雪の月夜

雪ふりしきてさえわたる月
春夏秋冬

二条院讃岐

敷島の跡をさそうて
春夏秋冬

月といふ事を

二条院讃岐

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

延喜御時御屏風の
歌 貫之

わくらはにとふ人あらば須磨の浦に
藻塩たれつつわぶと答へよ

正月のはじめの子の日やまにまかりて
小松をひきてよめる 紀宣明朝臣

ひく人の袖さへ色に見えぬべし
野辺の小松の千代のみどりは

人の家にまかりてよめる 同

かりそめに来てもみつべき
花なれど散りなむのちぞ恋しかりける

題知らず 紀貫之朝臣

寛和二年内裏歌合に
春歌 権大納言公任

霞こそ春のしるしと思ひしに
雪降りそへて花ぞ散りける

寛和二年内裏歌合に
春歌 藤原義孝朝臣

春ごとに花のさかりはありなめど
あひ見むことは命なりけり

寛和二年内裏歌合に
春歌 中務

わが宿の花見るほどは久方の
雲ゐに人を待つ心地こそすれ

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

寛治六年三月廿四日庚申
（次草）
とりつぎを持てまいりたるよ

前大納言為房

きみをのみ千代とぞ祈る我が身をも君がためとは今ぞ知りぬる

返し

山階入道前左大臣

君ゆえに身をも惜しまぬ命さへ長くと祈る我ぞ悲しき

源心法師母前左大臣

君ゆえに身をも惜しまぬ命さへ長くと祈る我ぞ悲しき

山階入道前左大臣

君ゆえに身をも惜しまぬ命さへ長くと祈る我ぞ悲しき

前大納言為房

文治二年百首の歌奉りし時

藤原為家

かきくもりみだれて雪のふるなかに花ぞ
さかりとみよしのの山

建長元年中務卿宗尊親王
百首歌奉りし時

春風

春風の吹きとくる氷間よりうちいづる波
ぞ花と見えける

前大納言為氏

春雨のふるさと寒き夕暮は花ぞ
ながめの袖もぬれける

従二位家隆

紙子打ちたる人通花園白梅を折りて
とりみだれる
あるじの侍従もとよりや歌よむ人
なりければ
須臾吟裏人寒夜
山一今朝万里春
と誦しけるを聞きて
冷泉前太政大臣
梅の香を春立つ時のあけぼのに
ほひそめけん風ぞ恨めし

宮内卿永範

百年を十とせこえたる古枝神もその
春賀のほどみぬべきかな

延保元年大嘗会巳日退出音声楽急板
ちせのそら　　前中納言匡房　スキカ
　　丹波
神垣のみむろの杉の年ふりて
松の扉風のその人乃歌
見わたせばいくへの雪のつもるらん
ひさしき松の色ぞかなしき　丹波国多紀郡
　　日置荘
ムラサキ
ふりぬるをいかでかはらんねのひの
宴会元年大嘗会屏風
なるみ潟おきつ汐風ふきぬらし
小松原よりみ吉野の山
仁安元年大嘗会屏風日近音楽急板
ちとせのそら　　前中納言匡房
神垣のみむろの杉の年ふりて
松の扉風のその人乃歌
見わたせばいくへの雪のつもるらん
ひさしき松の色ぞかなしき　丹波国多紀郡
　　日置荘
ムラサキ
ふりぬるをいかでかはらんねのひの
宴会元年大嘗会屏風
なるみ潟おきつ汐風ふきぬらし
小松原よりみ吉野の山
仁安元年大嘗会屏

853
166

3231

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用